

## 第67回全九州高等学校登山競技大会について

登山隊長 宝満 浩

### 1 はじめに

大会山域である霧島は、昭和9(1934)年に「霧島国立公園」として日本で初めての国立公園に指定された。霧島には大小20余りの火山や火口湖があり、上空から見ると月のクレーターのように見えるので、「月の国立公園」とも呼ばれている。昭和39(1964)年には、錦江湾(鹿児島湾)沿岸(桜島・指宿・佐多)と屋久島を加え、「霧島屋久国立公園」と改称された。その後、平成24(2012)年に屋久島が分割され、日本で30番目の国立公園として正式に指定されたことを受けて、火山活動によってできた地形や景観が中心の「霧島錦江湾国立公園」に改称されている。平成22(2010)年、鹿児島県と宮崎県の両県にわたる霧島山を中心とする環霧島地域(宮崎県では都城市、高原町、小林市、えびの市、鹿児島県では霧島市、曾於市、湧水町にわたる面積約2,600km<sup>2</sup>の範囲)が、「霧島ジオパーク」として日本ジオパークに認定され、現在、世界ジオパークの認定に向けて取組を進めている。ジオパークとは、ジオ(地球)に関わる様々な自然遺産、例えば、地層、岩石、地形、火山、断層などを含む自然豊かな公園のことである。

また、この山域には、天孫降臨の地として有名な高千穂峰をはじめ、多くの神話や伝説が残されている。ニギノミコトを祀る霧島神宮は当初、高千穂峰と御鉢の鞍部(脊門丘)にあったが、御鉢の噴火で消失し、その後、高千穂河原(古宮址)などを転々とし、現在地に至っている。他にも、霧島六社として、霧島東神社などがある。その一つ狭野神社にある杉並木は見事で、ブッポウソウの繁殖地として国の天然記念物に指定されている。また、高千穂峰山頂の天の逆鉾(あまのさかほこ)は霧島東神社の社宝である。今大会では、この豊かな自然と文化に恵まれた大会山域を、是非堪能してもらいたい。

### 2 霧島の自然

#### (1) 地形、気象、及び植生

この山域は現在の加久藤盆地に火口のあった、加久藤カルデラの南外輪山に位置する。これが風化し、再び活発な火山活動が開始され、最初は栗野岳が誕生し、獅子戸岳を中心に南北に火山が誕生した後、東西に火山が誕生した。風化と火山活動を繰り返しながら現在に至っている。

夏季(6~8月)の霧島連山は降水量が多く、韓国岳の麓であるえびの高原の夏の降水量の平年値は2,438mmである。これは山地特有の特徴であり、暖湿気流が山の斜面を駆け上がることで発達した雲が発生しやすく、雨が降りやすくなる。また、盛夏においては夕立となりやすいことも特徴である。九州地方が高気圧の周辺部となったり、日本の南海上に台風があったりすると、南からの暖湿気流が入りやすくなる。さらに上空に寒気が入り込むと大気の状態が不安定となり、雄大積雲や積乱雲に発達して夕立が発生しやすくなる。そして雲が発生しやすいということは、夏は霧にみまわれることが多くなるということでもある。なお、えびの高原(標高約1,200m)では、夏に最高気温が25℃以上となることはあまりない。朝は晴れていれば最低気温は15℃を下回ることが多い。また、雨が降れば日中は20℃を下回ることが多い。

霧島の山の多くは標高1000mを超える高さのため、えびの高原周辺は南東北地方と同様な平均気温であ

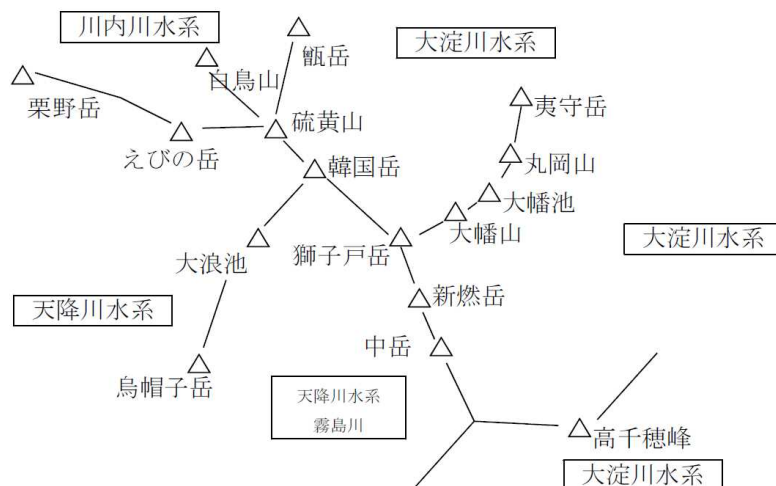
る。また、20あまりの霧島山の中で、約1万5千年前までに噴火・形成された火山では、高地であることとあいまって、氷期に南九州まで進出していたブナやミズナラ、モミ・ツガなどの群生が生き残っている。南九州の湿潤な気候帯にあり、形成時代の異なる火山がいくつもそびえ、今なお火山活動が続いていることにより多様な植生が保持されている霧島では、低地の照葉樹林、高地での落葉樹・針葉樹、森林限界付近でのミヤマキリシマなど植物の垂直分布や約1300種の多様な植物の生育を観察できる。また、御池周辺の森は、「御池野鳥の森」として昭和47年に国指定の野鳥の森としてオープンした。ヤイロチョウやオオルリなど珍しい鳥を含め、約130種類の野鳥が生息する。なお、えびの高原の名の由来は、秋になるとススキが高原をえび色に染めることによる。

この山域の代表的な植物はミヤマキリシマとノカイドウであろう。ミヤマキリシマは鹿児島県の花となっているが、その他にもキリシマミズキ、キシシマエビネ、キリシマヒゴタイなどキリシマと名のつく植物は多い。2022年にはキリシマギンリョウソウが新種として発表されたが、花びらが薄紅色でガラス細工のような美しい寄生植物である。ミヤマキリシマは火山性土壌に強く、日当たりの良い環境を好むため、現在も火山活動が続く霧島連山では広く見られる。ノカイドウはバラ科リンゴ属の低木で5月上旬に可憐な花を咲かせるが、最初はピンク色で次第に白色に変化する。世界でえびの高原にしか生えておらず国の天然記念物の指定を受けている。かつては500株以上あったが、現在では200株前後に減少し、絶滅危惧種にも指定されている。その原因はシカによる食害と太陽を好む低木であることから周囲のアカツによる日照障害である。

## (2) 主な動植物

- ①植物 ノカイドウ・ミヤマキリシマ・キリシマツツジ・キリシマミズキ・キリシマギンリョウソウ・ドウダンツツジ・ノリウツギ・ネジキ・ヤシャブシ・マンサク・アカマツ・リンドウ 等
- ②動物 シカ・イノシシ 等
- ③昆虫 ハナアブ・ベニボタル・アオスジアゲハ・キリシマミドリシジミ 等

## (3) 水系



ここに降る雨は上図のように各稜線（分水嶺）によって、大きく3つの水系に分けられる。

- ① 川内川水系・・・最終的に川内川を経て、薩摩川内市から東シナ海に注ぐ
- ② 大淀川水系・・・最終的に大淀川を経て、宮崎市から太平洋に注ぐ
- ③ 天降川水系・・・最終的に天降川を経て、霧島市から錦江湾(鹿児島湾)に注ぐ

### 3 霧島連山の主な火山と火口湖

- (1) <sup>たかちほのみね</sup>高千穂峰 標高1574m  
<sup>おはち ふたごいし</sup>御鉢と二子石の2つの寄生火山を従えている。山頂には「天の逆鉢」と呼ばれる鉢がある。御鉢・高千穂峰鞍部は脊門丘と呼ばれ788年の御鉢噴火の前まで霧島神宮があったとされる。その後、霧島神宮は<sup>きりしまじんぐうふるみやあと</sup>霧島神宮古宮址に移ったが、再度の噴火で社殿が燃えたため、現在の場所に移っている。
- (2) <sup>しんもえだけ</sup>新燃岳 標高1421m  
2011年1月26日に約300年ぶりとなる大規模な噴火を起こした。2022年8月に噴火警報レベル1に引き下げられたが、中岳山頂部を含む区域で入山規制が行われている。
- (3) <sup>なかだけ</sup>中岳 標高1332m  
現在中腹の探勝路までの散策ができるが、ミヤマキリシマの群落がある。
- (4) <sup>ししこだけ</sup>獅子戸岳 標高1429m  
この山域では栗野岳に続く古い火山で、全山が灌木に覆われている。
- (5) <sup>からくにだけ</sup>韓国岳 標高1700m  
火口壁の北西部には、水蒸気爆発によって生じたものと考えられている直径約500mの半円状の爆裂火口があるため、上空から見ると馬蹄形をしている。霧島火山群の最高峰。
- (6) <sup>こしきだけ</sup>甑岳 標高1301m  
山頂の火口には泥炭層が堆積した「池塘」と呼ばれる地形が見られ、食虫植物のモウセンゴケやオオルリボシヤンマなどがみられる。山名は昔の蒸し器(甑)に似ていることが由来とされる。
- (7) <sup>しらとりやま</sup>白鳥山 標高1363m  
山頂には電波塔が建っている。山頂は、白紫池を作った噴火でできた火山体の上にある。
- (8) <sup>おおなみいけ</sup>大浪池 標高1411m  
比高約500mの火山体で、5万年位前の噴火でできた火口内に水が溜まって火口湖ができた。2万年前の氷期を経験した古い火山なので、ブナやミズナラなどの寒い地域の植生がみられ、季節になればマンサクやミヤマキリシマが咲き誇る。山頂火口湖としては日本で一番高い位置にあるとされる。
- (9) <sup>いおうやま</sup>硫黄山 標高1317m  
江戸時代にできたと考えられている霧島で一番新しい火山。1962年までは硫黄の採掘を行っていた。2015年7月以降火山性微動や噴気が発生していることから立入規制となっていたが、2018年4月に250年ぶりに噴火した。2023年12月に噴火警報レベル1に引き下げられたが、火山ガスの発生もあり、付近の車道および登山道の一部には立入規制がある。
- (10) その他  
<sup>ひなもりだけ</sup>夷守岳 , <sup>みいけ</sup>御池 , <sup>ろくかんのんみいけ</sup>ろくかんのんみいけ , <sup>びやくしいけ</sup>白紫池 , <sup>ふどういけ</sup>不動池 など

#### 4 大会コース案内

※ 太字・下線は主要地点

< 7月 6日(土) > 高千穂峰コース

このコースのメインである高千穂峰は、約3万年より前に二子石が形成され、約1万年前頃に古高千穂が形成された。その後、約7000年前に高千穂峰が完成し、約4600年前に御池が大噴火した。そして、約1500年前から噴火を始めた御鉢が成長し、両肩が揃って、ついに左右相称の秀麗な高千穂峰の姿となった。深田久弥の『日本百名山』の霧島山の中で、最も多く描写されているのも高千穂峰である。

また、高千穂峰は、坂本龍馬が1866年の薩長同盟成立後の寺田屋で受けた傷の療養を兼ねて、おりょうさんと新婚旅行で、今の鹿児島や宮崎に来た際に登った山として知られている。このコースは、バスで「霧島自然ふれあいセンター」を出発し、「霧島神



宮駐車場」で下車、トイレ等を済ませ、パーティー単位で、参道の石段を登り、鳥居をくぐって「霧島神宮本殿前」の左手の広場に向かう。ここで隊列を整えスタートする。「霧島神宮本殿前」から左手に回り込むと、旧参道の亀石坂との出合いに、「高千穂嶽道」と刻まれた古い道標がある。ここからしばらくはスギの巨木の森である。山神社を過ぎると工事用の道に出る。509mの標高点のある尾根に乗り上げた所で右折する。最初は神宮川に沿いながらのやや急な登りで、切り切ると平坦となる。ここからアカガシやハリギリのある森の中の道になる。柵で囲まれたポンプ横を通過し、ほぼ車道に沿って進むと「車道横断地点」に到着する。この車道は比較的交通量も多く、横断場所の近くにはカーブもあるので十分気をつけよう。また、車道から高千穂河原までは林道との出合いや分岐らしき箇所もあり、迷いやすいので注意しよう。この後のコースは、かつて御鉢から流れてきた溶岩が固まった所が多いため、でこぼこした岩なども多い。足下には十分気をつけて歩こう。木が岩の上に根をはっているのもそのためである。



溶岩の上に根をはる木々

再び神宮川沿いに緩やかに登っていく。左手に砂防ダムが見えた所では、右手から左前方に下る林道に出会う。ここを横切り、正面の登山道を進む。アカガシ、ハイノキ、ハリギリなどの森の中を進むと右手に樹齢400~500年ともいわれるスタジイの巨木に出会う。その後急斜面を巻きながら尾根上に上がると左手の沢が詰まり、滝状になっている。普段は枯滝で水量が多いときにのみ滝と気付く。緩やかに登りながらホオノキやアカガシ等の林を北東方向に10分ほど進み、ヒメシャラの美しい幹が目につくようになると、ほぼ南北に走る広い林道と出会う（「林道出合い」）。林道を横切り、南東方面から張り出してきた尾根を巻くように進む。ユズリハやアカマツのなだらかな森をしばらく歩くと県道480号線(霧島樹帯トンネル)と出会う。車道のS字に沿っている登山道を登り、ネジキやミズナラの広がる台地状の森を進む。左手に深い沢が見えてくると、「高千穂河原」はもう間近である。「高千穂河原」は駐車場やトイレ等を備え、ビジターセンターもある。なお、国土地理院地図および大会地図の神宮川の表記に一部誤りがある。霧島神宮から高千穂河原までは、



古宮跡から望む御鉢

神宮川の左岸側を川に接近したり離れたりしながら並行して登って行く。右岸側に徒渉することはないので注意して欲しい。重ねて、今年に入って高千穂河原までのコースではヤマビルを目撃が数件報告されている。各パーティーでの対策が望ましい。

「**高千穂河原**」の大きな鳥居をくぐり、霧島神宮古宮跡までは広い参道を歩き、そこからは標識に従って右手の登山道に入る。30年ほど前に整備された石畳の階段が続くが、苔も生え滑りやすい箇所もあるので気をつけよう。アカマツ、ムラサキシキブ、ネジキなどを見ながら、しばらく行くと「**自然研究路三叉路**」で、直進すると神宮の森散策路である。目の前の沢はかつて溶岩が流れた跡である。左折して、溶岩が流れた傍にできた堤防状の高まりを利用した登山道をしばらく登る。ノリウツギやヤシャブシなどの樹木を見ながら進むとまもなく森林限界を抜け、赤茶けたスコリアなどの岩が広がるガレ場に出る。御鉢が新しい山であるため、森林限界は、矢岳等と比べると低い標高で出てくる。ここから「**御鉢火口縁**」まで急登が続く。場所によっては、岩の崩壊が進んでザレ場になって登りにくい箇所もあるので、足下に気をつけながら一步一步登っていこう。高千穂峰まではガレ場・ザレ場の道で、靴に小石が入りやすいので注意しよう。また、落石しないように十分注意してもらいたい。



御鉢のガレ場

30分も登ると「**御鉢火口縁**」にたどり着く。樹林のない岩場を登るので夏場の晴天であればかなり暑くなる。熱中症対策は十分にとって大会に臨んでほしい。御鉢の火口には噴気口があり、硫黄特有の匂いがあたり一面立ち込めることもある。火口内側には赤と黒の火山噴出物が層状に堆積しているのを見ることができる。現在、御鉢の南側火口縁は立ち入り禁止であり、一周することはできない。そのまま馬ノ背と呼ばれる北側火口縁を登る。大きな火山弾がいくつかあるが、これは明治・大正期の御鉢の噴石であり、坂本龍馬が登ったときにはまだ無かった。馬ノ背は細くなっている箇所もあるので風のあたりも強い、十分注意を払おう。龍馬は姉の坂本乙女宛の手紙に「あの『馬の背越え』です。なるほど、左右目が届かぬくらい下がかすんでいます。あまり危かしいのでお龍の手を引いてやりました。」と書いている。

馬ノ背の最高点を越え下ると、霧島神宮の前身の神社があったといわれる御鉢・高千穂峰鞍部の「**脊門丘**」に着く。現在ではその後の御鉢の噴出物が堆積したところに新しく鳥居が建てられている。なお、この周辺ではコイワカンスゲに被われた地面が数十センチの高さに丸く盛り上がっているアースハンモック(凍結坊主)を見ることが出来る。これは本来、北海道や日本アルプスで見られる周氷河現象であるが、山体の形成が新しく、また、強風を受けやすい環境であったことから形成されたと考えられている。

御鉢と高千穂峰の間では、1235年の噴火で出たスコリアが赤と黒の地層を作っている。色の違いは、マグマの鉄分が冷え固まる時に十分に酸素と触れると酸化して赤っぽくなり、十分に空気と触れないと黒っぽくなるためである。

御鉢の山肌に露出する赤と黒の岩石も同様である。「**脊門丘**」からは、溶岩ドームである山頂部を目指して登っていく。かつては登りと下りのルートが区分されていたが、現在では同じルートである。近年、ボランティアの手で整備が行われており、以前より登りやすくなっているが、落石等には十分気をつけよう。



高千穂峰山頂(天の逆鉾)

右手に柵が見えると、いよいよ天孫降臨神話のある「**高千穂峰山頂**」である。霧島連山でも南端に位置する高千穂峰の展望は素晴らしい。北西方向には縦走路が一望でき、また、南方には、霧島山から桜島、開聞岳と西日本の火山帯に沿って山々が一列に並んでいる様子がよく分かる。頂上には、天孫降臨神話にまつわる天の逆錐がある。龍馬とおりょうは、2人でこの天の逆錐を「エイヤ」と引き抜いてしまったと手紙に書いてある。

「**高千穂峰山頂**」からは、往路と同じルートで「**脊門丘**」，「**御鉢火口縁**」，「**自然研究路三叉路**」を経由して「**高千穂河原**」まで下りた後、バスで幕営地の「**霧島自然ふれあいセンター**」へと向かう。

< 7月 7日(日) > 大浪池・韓国岳コース

バスで「**霧島自然ふれあいセンター**」を出発し、「**いわさきバス駐車場**」へ向かう。以前はここにトイレがあったが、現在は使用できないため、「**霧島自然ふれあいセンター**」を出発する際にすませておこう。

「**いわさきバス駐車場**」でバスを降り、100mほど歩いたところの「**大浪池登山古道入口**」から入っていく。現在ではあまり使われていないが、石段の存在から良く整備されていたことが分かる趣のある道なので、じっくりと堪能してもらいたい。古道に入って少し行くと急登が始まるが、長くはないので安心しよう。そして登り切ると傾斜は緩やかになって、周りをツガやイタヤカエデ、ホウノキ等の巨木に囲まれる。しばらく歩いて、足下に岩が目立ち始めると県道1号並びに「**大浪池登山口**」が近くなる。「**大浪池登山口**」ではトイレ利用を含めて休憩をとる予定である。県道1号を横断する際には、交通量が多いので十分気をつけよう。

「**大浪池登山口**」を入ると、綺麗に整備された石畳が続く。しばらくはアカマツやモミ、ツガの巨木の中を歩くため眺望はないが、涼しい風に頬を撫でられながらの快適な歩行を楽しみたい。石畳も終わり、周りがササに変わってくると間もなく「**大浪池展望所**」に到着。そして眼前には青々と水を湛えた大浪池が現れる。大浪池のコース周辺には、ベニドウダンやマンサク、ミヤマキリシマ、リョウブ等が見られる。子宝に恵まれない庄屋がやっと授かった女の子「お浪」は、実は庄屋夫婦の熱心な願いを聞き入れた、池に住む竜王の化身だったという民話から名前が付いたと伝えられる大浪池は、直径約600m、最大深度12mの正円形をした典型的な火口湖で、水面標高1,241mは火口湖としては日本一。また、池の名称が山の名称にもなっている珍しい池である。令和2年9月より供用を開始した大浪池休憩所には携帯トイレブースが設置されている。池を左手に見ながら反時計回りでぐるりと半周していく。大浪池の最南部を歩行中、北東に韓国岳、南東に新燃岳、そして南に烏帽子岳が見える。その雄大な展望には登山欲がかき立てられることだろう。しばらく火口縁を歩くが、途中にむき出しになっている岩のなかで、亀の甲羅のような割れ目



大浪池登山古道入口



大浪池登山口



大浪池から見る韓国岳

もなっている珍しい池である。令和2年9月より供用を開始した大浪池休憩所には携帯トイレブースが設置されている。池を左手に見ながら反時計回りでぐるりと半周していく。大浪池の最南部を歩行中、北東に韓国岳、南東に新燃岳、そして南に烏帽子岳が見える。その雄大な展望には登山欲がかき立てられることだろう。しばらく火口縁を歩くが、途中にむき出しになっている岩のなかで、亀の甲羅のような割れ目

がある。これは溶岩が冷え固まるときに縮んでできた割れ目であり、これが発達すると柱状節理となる。なお、柱状節理の全体の様子については、韓国岳の爆裂火口の北東側等でみることができる。大浪池の火口縁から外れて下りが始まると樹林帯に入り眺望が利かなくなる。少し行くと韓国岳との鞍部に「**韓国岳避難小屋**」がある。昼食休憩の後、「**韓国岳避難小屋**」から北東に続く登山道へ進路を取り、韓国岳に直登する。樹林帯の中を進むと次第に傾斜が急になり、木製の階段を登ることになる。この木製の階段は近年荒廃が進み、欠損した場所や不安定なものもあるため、十分注意して登ってもらいたい。樹林帯を抜け、ミヤマキリシマの群生する地点に達し岩場が現れると頂上はもう間近である。次第に傾斜は緩やかになるが、ガレ場では足を捻挫しないようにゆっくりと登る。「**韓国岳避難小屋**」を出発して45分ほどで「**韓国岳山頂**」に到達する。天候がよければ、360度に広がる大パノラマを楽しめる。



亀の甲羅のような割れ目

「**韓国岳山頂**」からは、今来たルートと霧島縦走路が伸びている。ガスがあると迷いやすいので気をつけたい。我々は、霧島縦走路を北西に進む。ミヤマキリシマの群生地を過ぎてしばらく下ると開けた地点にさしかかるが、ここが「**五合目**」で韓国岳登山道休憩所が新設されているが構わず進む。ここからは一層足場も悪くなり傾斜もきつくなるが、慎重に下ってゆく。木や岩が多いので、雨天時などは滑らないように留意したい。三合目付近から樹林帯に入ると、足元はより滑りやすくなる。展望台から少し登り返した後、広葉樹の林をジグザグに下っていくと、舗装してある散策路へと合流し、「**五合目**」を出発して50分程で「**えびの高原駐車場**」に到着する。ここでもトイレ利用を含めて休憩をとる予定である。

休憩の後、池巡りコースの散策路へと入っていく。えびの展望台付近で右へと鋭角に大きく曲がり、沢をいくつか越えると、石段のやや急坂となる。登り切ってやや平坦になると

「**白鳥山登山口**」である。これを左に進み、アカマツ林の中のゆるやかな坂道を上ると、六観音御池と白紫池が一望できる「**二湖パノラマ展望台**」に到着する。白紫池の火口壁の縁に当たる部分を進み、ガレ場の急坂を登り切ると「**白鳥山山頂**」である。なお、山頂部のガレ場付近はガスが出ると迷いやすいので注意したい。白紫池北側の緩やかな下り坂を進むと「**白鳥山北展望台**」である。さきほど登った韓国岳や、麓の硫黄山の姿を見て一息つき、下りに備えよう。ジグザグの急な下り坂を下りると、「**白鳥山北登山口**」に到着である。左に進めば六観音御池を經由して不動池へと至るが、硫黄山の火山活動の影響で現在は通行ができないため、今回は右に進路を取る。白紫池の取水口を經由して再び「**白鳥山登山口**」へと戻り、往路を逆にたどる。「**えびの高原駐車場**」に到着後、トイレ等をすませ、バスで宿舎のホテル霧島キャッスルへと向かう。



韓国岳方面からの硫黄山

「**白鳥山登山口**」である。これを左に進み、アカマツ林の中のゆるやかな坂道を上ると、六観音御池と白紫池が一望できる「**二湖パノラマ展望台**」に到着する。白紫池の火口壁の縁に当たる部分を進み、ガレ場の急坂を登り切ると「**白鳥山山頂**」である。なお、山頂部のガレ場付近はガスが出ると迷いやすいので注意したい。白紫池北側の緩やかな下り坂を進むと「**白鳥山北展望台**」である。さきほど登った韓国岳や、麓の硫黄山の姿を見て一息つき、下りに備えよう。ジグザグの急な下り坂を下りると、「**白鳥山北登山口**」に到着である。左に進めば六観音御池を經由して不動池へと至るが、硫黄山の火山活動の影響で現在は通行ができないため、今回は右に進路を取る。白紫池の取水口を經由して再び「**白鳥山登山口**」へと戻り、往路を逆にたどる。「**えびの高原駐車場**」に到着後、トイレ等をすませ、バスで宿舎のホテル霧島キャッスルへと向かう。

## 大会日程

	第1日 (7/5(金))	第2日 (7/6(土))	第3日 (7/7(日))	第4日 (7/8(月))
04:00		起床	起床	
05:00				
06:00		引継式(設営隊→行動隊) 霧島自然ふれあいセンター 発 <b>【計画輸送・バス移動】</b>	引継式(設営隊→行動隊) 霧島自然ふれあいセンター 発 <b>【計画輸送・バス移動】</b>	起床
07:00		霧島神宮駐車場	いわさきバス駐車場	朝食
08:00			大浪池登山口	
09:00		高千穂河原	大浪池展望所	
10:00			韓国岳避難小屋(昼食)	受付 閉会式
11:00	専門委員長会議	脊門丘(昼食)		解散
12:00	選手・監督受付	高千穂峰山頂	韓国岳山頂	
13:00	監督・リーダー会議		えびの高原駐車場	
14:00	開会式	高千穂河原 発 <b>【計画輸送・バス移動】</b>	白鳥山 えびの高原駐車場・解団式	
15:00	競技開始	霧島自然ふれあいセンター 引継式(行動隊→設営隊)	えびの高原駐車場 発 <b>【計画輸送・バス移動】</b>	
16:00			ホテル霧島キャッスル	
17:00				
18:00				
19:00	(リーダー会議)	リーダー会議	夕食	
20:00				
21:00	消灯	消灯		
22:00			消灯	



## 荒天対策（概要）

7月5日（金）に起こった場合

	地震（震度5弱以上）	台風・気象警報以上	大雨注意報 雷注意報 発表時
7月5日（金）	大会中止 早期帰還準備	宿泊所待機 行動中止	通常行動
7月6日（土）	帰宅完了	通常行動	通常行動
7月7日（日）		通常行動	通常行動
7月8日（月）		通常行動	通常行動

7月6日（土）に起こった場合

	地震（震度5弱以上）	台風・気象警報以上	大雨注意報 雷注意報 発表時
7月6日（土）	大会中止 早期帰還準備	宿泊所待機 行動中止	通常行動
7月7日（日）	帰宅完了	通常行動	通常行動
7月8日（月）		通常行動	通常行動

7月7日（日）に起こった場合

	地震（震度5弱以上）	台風・気象警報以上	大雨注意報 雷注意報 発表時
7月7日（日）	大会中止 早期帰還準備	宿泊所待機 行動中止	通常行動
7月8日（月）	帰宅完了	通常行動	通常行動

7月8日（月）に起こった場合

	地震（震度5弱以上）	台風・気象警報以上	大雨注意報 雷注意報 発表時
7月8日（月）	（大会中止） 早期帰還準備	宿泊所待機 行動中止	通常行動

## 連絡先

- ・鹿児島県高体連事務局

〒891-0141 鹿児島県鹿児島市谷山中央 8-4-1

鹿児島県立鹿児島南高等学校 内

TEL:099-268-8391 FAX:099-268-0234

- ・登山専門部事務局

〒895-0061 鹿児島県薩摩川内市御陵下町 6-3

鹿児島県立川内高等学校 内

TEL:0996-23-7274 FAX:0996-22-1542

[大会本部]

- ・7月5日（金）～7月7日（日）

鹿児島県立霧島自然ふれあいセンター

鹿児島県霧島市牧園町高千穂 3617-1 TEL:0995-78-2815

- ・7月7日（日）～8日（月）

ホテル霧島キャッスル

鹿児島県霧島市牧園町高千穂 3878-49 TEL:0995-78-2211

## 留意事項

- (1) 大会本部は上記の通り、鹿児島県立霧島自然ふれあいセンター、及びホテル霧島キャッスルとする。
- (2) 実施要項の「15. 連絡事項について」の（7）に記載の通り、暑さ・風雨・防虫等の対策を考慮しておくこと。特に、行動時の水分や塩分の補給等については、十分対策を考慮しておくこと。
- (3) 実施要項の「15. 連絡事項について」の（8）に記載の通り、コース中、水場の利用ができない可能性があるため、水の確保に努めること。なお、第2日目（7/6(土)）の高千穂河原において、水道が使用できる場合には給水しても構わない。
- (4) もし、事前の下見等を行う場合には、自然保護や他の登山者へ配慮ある行動を心掛けること。また、登山道の木道・階段等には近年荒廃が進んでいる箇所もあるので、十分注意して通行するとともに、荒天や熱中症などに対する安全対策を図ること。  
※各県の専門委員長の先生を通じてお願いをいたしました。が、「霧島神宮駐車場」～「高千穂河原」の区間を通行する際には、事前に霧島神宮（代表電話：0995-57-0001）へその旨を連絡してください。（同区間には霧島神宮の私有地が含まれるため、安全管理上の理由からです。）
- (5) 予報1号と一緒に九州高体連のウェブページに掲載する大会地図は、A4版となっているので、プリントアウトする際には注意すること。
- (6) その他、詳細は予報2号において連絡するので確認すること。